

も食事への関心が高いことが数字から読み取れた。「記憶に残る食事場面」では、「友人と(48%)」「家族と(47%)」の思い出が大半を占めた。「食事に求めているもの」で「団欒・コミュニケーション」を選んだ人は「記憶に残る場面」で「家族と」「自宅で」「手作り」による食事をあげる傾向が高かった。従来の食教育やマスメディアの影響による「栄養」や「食品」への意識が確認できるとともに、「食事」を通じて「心」を感じたり「人間関係」が築かれてきたことも確認できた。

6. 福井県における神饌の実態 橋本明子・南アイコ・谷 洋子(仁愛女子短大) 神饌は、古い時代の食生活を知る上で貴重な資料となる。そこで、福井県における神饌の実態を知ることが目的に、祈年祭、新嘗祭、例祭について調査した。県内の神社に郵送によるアンケート調査と5神社の聞き取り調査を行った。神饌の基本とされている米、酒、塩、水はほぼすべての神社で供えられていた。米では白米、酒では清酒、餅では丸餅、魚では鯛、するめ、海藻では昆布がそれぞれ多く、野菜、果物は限定なく季節のものが2~3種類供えられていた。供える台数としては9台が最も多く、台数が増えると、酒、塩、水で1台であったものが、酒、塩と水に分かれ、魚、野菜が2台に増えていく傾向がみられた。聞き取り調査では熟饌もみられ、嶺北では昆布巻き、すこなど、嶺南では鯛の汁物、鯛の塩焼きなど地域性がみられた。

7. 富山の魚について一日常の食事や行事に用いる魚と調理Ⅰ 大菅洋子・原田澄子・塩原紘栄・深井康子・守田律子・吉田紀子(富山短大) 漁場の多い富山でどんな魚がどのように食されているかを県内5カ所の漁場の女性69人を対象に調べた。

(1) 魚の調達は大部分を購入が自給(漁獲)より多かった。(2) 日常的に食する魚44品の調理方法は焼く、刺身、煮る、揚げる、汁、和える、ご飯物の順となって新鮮な味を食べる習慣が見受けられ、焼く魚の種類が多い。(3) 刺身はフクラギ、イカ、鰯が、昆布ジメはサス、ヒラメが多く用いられ、ホタルイカは酢物、白エビはカキ揚げ、刺身にして食べられている。刺身にする魚の種類も多い。(4) 祭祀・催し物の行事や交際の使用では鱈寿司が贈答用、かぶら寿司は正月用の傾向はあるものの、全体にハレとケの区別が薄れてきている。

8. 富山の魚について一日常の食事や行事に用いる魚と調理Ⅱ 原田澄子・大菅洋子・塩原紘栄・深井康子・守田律子・吉田紀子(富山短大) 第Ⅰ報で調査した5漁場を県東部、富山市、県西部に分け、富山

県の魚について地域に違いがあるかを調べた。刺身に使う魚種は、3地域ともフクラギが多く、次いでイカ、甘エビ、鰯等であった。昆布ジメの魚種はサス、白エビ、ヒラメ等で、摂取は富山市が多かった。刺身、昆布ジメ何れも魚種に東西の違いがみられた。ホタルイカの摂取は東部、富山市が若干多く、調理法は、ヌタ、佃煮、刺し身の順であった。白エビの摂取は富山市が多く、調理法はかき揚げ、刺身の順であった。伝統食品の摂取では、富山市はカマボコ、スリ身、棒鱈、昆布巻き、東部はスリ身、昆布巻き、押し寿司が多く、西部は全ての食品が少なかった。行事食への利用は、富山市は全て6品、東部はスリ身以外5品、西部はカブラ寿司以外は少なかった。

9. 福井県のへしこに関する実態調査 谷 洋子・坂口絵美(仁愛女子短大) 福井県の特産品であるへしこは、家庭でほとんど作られなくなった。しかし近年、郷土食が豊かになり見直されてきている。へしこの嗜好性および調製法、調理法、市場での状況の実態調査を行い、福井県の現状を知り今後の食生活の動向を探った。嗜好調査は1,113名を対象にアンケート調査を行い、調製法、調理法、販売状況は聞き取り調査をした。さらに、伝統的料理等を試作し官能評価を行った。その結果、認知度は84%で、拡大家族、50代以上で有意に高かった。嫌いな理由は塩辛い、糠臭いであった。調製法は鯖を背開きにして10日程塩漬けして糠をまぶし、下漬けの際の汁を加え半年以上熟成させていた。調理法にはすしめしを詰めた「へしこすし」も見られ、また、チャーハン、パスタにも利用されていた。調理法の工夫で今後も食べ続けられると思われる。

10. 吉野熊野地域の郷土料理の実態と意識 成田美代・磯部由香(三重大教育) 熊野川・十津川兩岸の三重・和歌山・奈良県境地域で、なれずし以外の郷土料理や行事食について調べた。調査対象者はA和歌山県33名、B三重県46名、C奈良県52名である。①なれずし以外に最も多かった郷土料理は「さんまずし」、次いで「めはりずし」、3位はA「おまぜ」、B「こぶずし」、C「ゆうべし」であった。郷土料理としてAで24種、Bで35種、Cで30種挙げた。そのうち米を用いた料理はA63%、B63%、Cでは30%であった。②冠婚葬祭などの行事と関わった行事食を作る人はA45%、B30%、C42%であった。③年末・年始の食生活が「10年ぐらい前と比べて変化してきた」と回答したのはA36%、B26%、C21%であった。④正月に餅を準備する人はA79%、B91%、C92%で、平均